

平成 28 年度 十日町・中魚 生活科部 活動報告

部長 本 田 正 俊

1 研究主題

生活科及び総合的な学習の時間の単元構想と授業づくり

2 研究の概要

地域の素材をもとに外部人材を活用する授業を公開し、児童生徒の思考力を高めるための授業のあり方について協議した。

社会に開かれた教育課程を具現化するための、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメントについて、上越教育大学教職大学院准教授 松井千鶴子先生を講師に迎え、講演と演習を交えながら学ぶ機会とした。

3 研究の実際

4月28日 郡市教振委員総会

会 場 中央公民館

内 容 組織作り 事業計画作り

7月20日 総合的な学習の時間の授業公開と協議

会 場 松之山自然休養村センター

内 容 <授業>松之山中学校2学年

「未来へつなぐ松之山 ～農業を通して、松之山と生き方を考える～」

<協議>児童生徒の思考力を高めるための学習指導はどうあるべきか

8月23日 郡市教振全員一斉研修会 総合・生活部会

会 場 松之山自然休養村センター

内 容 講演と演習

<演題>生活科・総合的な学習の時間の単元構想と授業づくり

<講師>上越教育大学教職大学院 准教授 松井千鶴子 様



4 成果と課題

○ 授業協議会では、外部人材の思いに触れさせること、自分事として地域の将来を考えさせること、課題にこだわりをもたせることで探求的な学習が可能となり、思考が深まる等の意見が出された。参会者が、今後の総合的な学習の時間の指導について見通しをもつことができた。

○ 次期学習指導要領がめざす「社会に開かれた教育課程」では、教育課程を介して学校が社会や世界と接点をもち、学校教育を通じてよりよい社会づくりをめざすことが求められる。生活科や総合的な学習の時間において、このような教育を実現するためには、教師自身が子どもや地域の実情をもとにして、カリキュラムを構築し適切にマネジメントする能力が必要となる。この生活科や総合的な学習の時間におけるカリキュラムマネジメントの理論とその方策について豊富な資料や具体的な実践VTRをもとにして学ぶことができた。参会者からは、「目の前の子どもや地域の状況に合わせてカリキュラムを作ることが大切だ。」「小中9年間を見通したカリキュラムマネジメントが合理的だ。」「総合的な学習の時間では、切実感、自分事、学ぶ価値をキーワードとして、計画・実践していきたい。」等の感想が聞かれ、2学期からの実践の道標となった。